慶應義塾体育会柔道部部員心得

制定　平成３０年９月３０日

慶應義塾体育会柔道部は、福澤諭吉先生が明治１０年、慶應義塾幼稚舎の和田義郎初代舎長に対し、塾生の鍛錬のため柔術指導を指示し、三田山上で稽古したのを起源とする。慶應義塾体育会に部番号１番として所属する伝統ある部にして、慶應義塾大学を代表して対外試合を行う唯一の柔道部である。

　部員は、慶應義塾体育会の正会員として、慶應義塾体育会会則第２条に従い、柔道にいそしみ義塾の発展に寄与しようとする塾生が先輩塾員の協力のもとに、技をみがき、体位の向上をはかるとともに、品性を陶冶し、学生スポーツの本旨を全うすべく努力しなければならない。

|  |
| --- |
| 心身之順是柔道（しんしんのしたがうはこれじゅうどう） |

　これは、明治２０年代後半、慶應義塾で開催されていた柔道大会の参加者に寄贈された袱紗に福澤諭吉先生の直筆で染め抜かれていた成語である（昭和８年『慶應義塾柔道部誌』）。三田綱町武道館柔道場師範室に掲額するとともに、慶應義塾体育会柔道部ホームページのフロントページにも掲載し、塾内各道場には福澤先生の肖像画とともに歴代指導者による同文の揮毫を掲げている。

その意味は、「心の修養と身体の鍛錬とのバランスのとれた柔道こそ、塾の柔道である」との福澤先生による柔道部員への訓えである。

|  |
| --- |
| 　 訓 示一、心志を剛強にし容儀を端正にせよ。一、師友に対して礼あれ。一、教室の神聖と校庭の清浄を護れ。一、途に老幼婦女に遜れ。善を行ふに勇なれ。　　　塾 長 |

　この訓示は、昭和１５年１０月、当時の小泉信三塾長が、常日頃心がけていなければならないことの要点をまとめ、大学と高等部の教職員と学生に「心してそれを守り、決して塾の徽章の名誉を傷つけることがないように期待する」と前置きし、学内に掲示した訓示である。柔道部では三田綱町柔道場（現綱町武道館柔道場）が改築のため平成3年に取り壊されるまで道場上座に掲示していた。

|  |
| --- |
| 感謝‥そして未来 |

　平成１４年４月１３日に三田山上で挙行された慶應義塾体育会柔道部125年記念式典の際のスローガン。部員は諸先輩等の協力や過去の部運営・戦績に感謝するとともに、未来の栄光を目指し、後輩たちを先導し、新しい伝統を築いていく。

以　上